
■■■■ ■ ■■■■ 利用教育委員会通信
■ ■ ■■■ 日本図書館協会図書館利用教育委員会
■■■■ ■■■■ ■■■■ JLA The Committee of User Education

- ・「< C U E > 利用教育委員会通信」は、日本図書館協会図書館利用教育委員会の最新のニュースをお伝えするメールマガジンです。
- ・< C U E > とは、Committee of User Education の頭文字です。英語の「cue」はスタートの合図の意。利用教育の普及への願いを込めた誌名です。
- ・利用教育関連の情報をお寄せください。
- ・メールマガジンに関するご意見、ご要望はこちらへ。cue@jla.or.jp

□ 目次

- (1) 第 16 回図書館利用教育実践セミナー in 京都のご案内
- (2) 第 12 回図書館総合展のポスターセッション参加のご報告
- (3) 図書館利用教育委員会の Web サイトの変更について
- (4) 図書館利用教育文献一覧 (2010 年 6 月～2011 年 1 月発行分)
- (5) 編集後記
- (6) 図書館利用教育委員会委員

-
- (1) 第 16 回図書館利用教育実践セミナー in 京都のご案内
図書館利用教育の実践—すべての図書館で利用教育を
日 時：2011(平成 23)年 3 月 12 日 (土) 9:30～13:00
会 場：キャンパスプラザ京都 (JR 京都駅ビル向かい)
5 階第 1 講義室
<http://www.consortium.or.jp/index.php>

- 基調報告 「英国における情報リテラシー教育をめぐる最近の動向 (仮題)」
講師：野末俊比古氏 (青山学院大学/当委員会委員長)
- 動向紹介 「アクセシビリティを考慮した図書館利用教育ウェブサイトの作成法—JIS X8341-3 改訂の動向」
講師：福田博同氏 (跡見学園女子大学/当委員会委員)
- 実践報告 1. 公共図書館
「大阪府立中央図書館における図書館利用教育」
講師：藤田章子氏 (大阪府立中央図書館協力振興課)
- 2. 大学図書館

「教員との協働によるライティング指導の試み
—大阪大学附属図書館の事例」

講師：赤井規晃氏（大阪大学附属図書館利用支援課）

3. 学校図書館

「問いをつくるスパイラル—考えることから探究学習をはじめよう！」

講師：天野由貴氏（椋山女学園高・中図書館／当委員会委員）

基調報告では、英国の情報リテラシー教育の最新事情を、各館種の発表者からは、現在最前線で行われている実践事例を報告していただく。

質疑応答では、フロアからの活発な議論を期待する。

- ・主催：日本図書館協会（JLA）
- ・企画・運営：JLA 図書館利用教育委員会
- ・対象：図書館職員，教職員，教育関係者，マスコミ関係者，一般
- ・参加（資料）費：JLA 個人会員 500 円／JLA 個人会員以外 1,000 円
- ・定員：280 名（申込先着順）
- ・申込方法：下記の申込書に記入のうえ，下記宛てに電子メールでお申込みください。

E-mail：cue@jla.or.jp

- ・申込締切：2011 年 3 月 7 日(月)

締切日以降は，当日，会場にて受付。

- ・申込・問合せ先：JLA 図書館利用教育委員会事務局（cue@jla.or.jp）
- ・詳細・最新情報：<http://www.jla.or.jp/cue/>

■ 申込書

《図書館利用教育実践セミナー》参加申込書：第 16 回

[2011 年 3 月 12 日（土）]

申込日：

氏名（氏名ヨミ）：

JLA 個人会員／JLA 個人会員以外（会員の場合は会員番号： ）

所属：

住所：

電話番号：

電子メール：

※記入いただいた情報は，今回の研修の企画・運営の参考にするほか，今後，研修等の情報をお送りする場合などを除き，利用，公表することはありません。

(2)第 12 回図書館総合展のポスターセッション参加のご報告

「「図書館利用教育ガイドライン」共創の場～ともにつくり，ともに考える～」と題して発表

石川敬史（工学院大学総合企画室兼図書館）

日本図書館協会図書館利用教育委員会は，11月24-26日にパシフィコ横浜展示ホールで開催された第12回図書館総合展のポスターセッションにおいて，「「図書館利用教育ガイドライン」共創の場～ともにつくり，ともに考える～」と題して発表した。

その内容は，1) 図書館利用教育ガイドラインの歴史，2) 図書館利用教育ガイドラインの概要（目標，方法），3) 電子ブック・電子ジャーナル，業務委託化の広がりの中で図書館利用教育ガイドラインの強みと弱みは何か，4) 図書館利用教育ガイドラインの「ありたい姿」とは何かである。さらに，Web アクセシビリティ（JIS X8341-3：高齢者・障害者等配慮設計指針）啓蒙ポスターも同時に発表した。これらのうち，3) と 4) については，単に用紙を掲示するのではなく，図書館利用教育ガイドラインに関する複数の設問について，ポスター発表を見た方がポストイットでコメントの投稿やシールで投票ができるように工夫して作成した。

例えば，「図書館利用教育ガイドラインを知っていますか？」という設問については，知っている 30 名，知らない 23 名であった。また，「図書館利用教育ガイドラインを今後どうしたいですか？」という設問については，「時代背景や，海外の基準を踏まえ，改訂版の作成を急ぐ」という回答が最も多く，次いで「実践例を集め，現在のガイドラインの意義を強調する」という回答も多かった。

今後，現在の図書館利用教育ガイドラインの改訂も視野にいれつつ，多くの図書館員を巻き込みながら，そのあり方を検討する必要がある。

(3)図書館利用教育委員会の Web サイトの変更について

アクセシビリティに配慮した Web サイトに

福田博同(跡見学園女子大学文学部)

図書館 Web サイトは図書館利用の窓であり，アクセシビリティに配慮する必要があります。本サイトも 2010 年 6 月からアクセシビリティ対応に変更しつつあります。

さて，アクセシビリティ Web サイトについて若干振りかえってみます。

1999 年 5 月，W3C の「Web Content Accessibility Guidelines 1.0」(WCAG1.0) や，それに基づき 2004 年 6 月に JIS 規格 JIS-X8341-3 で具体的な基準が示されております。

WCAG については，2008 年 10 月に WCAG2.0 として改訂されました(URI:
<http://www.w3.org/TR/2008/REC-WCAG20-20081211/> 日本語訳:財団法人日本規格協会情報技術標準化研究センター情報アクセシビリティ国際標準化に関する調査研究開発委員会

ウェブアクセシビリティ国際規格調査研究部会 URI:

<http://www.jsa.or.jp/stdz/instac/committee-acc/W3C-WCAG/WCAG20/index.html>)。

それに伴い、JIS-X8341-3は2010年8月20日に改訂されました(URI:
<http://www.jisc.go.jp/app/pager?id=85167>)。現在、工業標準化法第六十七条、障害者福祉法第十九条、政府の「行政情報の電子的提供に関する基本的考え方(指針)」などにより、公共機関のアクセシビリティ対応は必須となっています。

また、2010年3月に筆者は「アクセシビリティを具現した図書館利用教育：現状と課題(1)」(『跡見学園女子大学文学部紀要』No.44

全文：<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007558435>)として県立レベルの公立図書館を調査し、そのレベルを分析、批評し、望ましき方向を提言しました。

同様な試みは、この11月4日アライド・ブレインから「A.A.O.ウェブサイトクオリティ実態調査 図書館編第1回」として県立図書館の実名入りで公開されました(URI: http://www.aao.ne.jp/research/cronos2/2010_library/index.html)。

そのニュースを同日に伝えたJapan.internet.comは、「公立図書館Webサイトの多くがアクセシビリティへの配慮不十分——アライド・ブレインズ調査」として、他の地方自治体より配慮の不十分さが指摘され、Webサイトの改訂が急務となっております

(URI: <http://japan.internet.com/busnews/20101104/2.html>)。

「先ず、隗より始めよ」です。図書館利用教育委員会では、先ず、「盲ろう者」が読むことのできるサイト、高齢者・弱視者が読むことができるサイトへ変更し、徐々に肢体不自由者も利用できるサイトへと変更する予定です。

今回の修正は以下の通りです。

1) 見やすい配色(コントラスト比)

白地に黒文字(リンクは青文字)より、黒地(もしくは紺地・青地)に白太文字(リンクは黄文字)が最も見やすく、対応しました(また、コントラスト比がない場合、読めない人がおります)。

2) 見やすい行間

英語(1バイト文字)の行間に日本語(2バイト文字)を入れれば必然的に行間がせまく、見づらくなります。英文を1とすると1.5前後の行間が必要で、対応しました。

3) 単語の間に空白を入れない

「日本図書館協会」と空白を入れて記入されている文字は音声ブラウザでは何を申しているか分かりませんので対応しました。

4) 弱視者用に画面を拡大してもカーソルの横スクロール不要

老眼用には、18point程度の文字が最低限必要ですが、現在のブラウザはCtrlキーに+キーで画面を拡大できます。弱視の場合、さらに文字を拡大する必要があります。拡大で画面外の文字は横スクロールしないと読めないサイトが多い

のですが、本サイトは対応しております。

5) 1 ページを音声ブラウザで 90 秒以内を目標に

1 ページを下スクロールしないことが原則ですが、読み物の場合長くなるので 90 秒以内の読み上げを基準としています。リンク数が多いと音声ブラウザで読み上げるのも大変です。1 ページのリンク数を最大 15 以内を目標にしています。

6) WCAG1.0 に対応

3 つのアクセシビリティチェックにパス。

- W3C のアクセシビリティチェック (The W3C Markup Validation Service.

URI: <http://validator.w3.org/>) にパス

- W3C の「CSS Validation Service」

(URI: <http://jigsaw.w3.org/css-validator/validator.html.ja>) にパス

- Another HTML-lint (URI: <http://openlab.ring.gr.jp/k16/htmlint/htmlint.html>) で 100 点。

今回修正した、紺地に白文字分はすべてパスしております。チェックマークを推奨されておりますが、リンクが増えるので記入しておりません。

概ね、上記の点を配慮しましたが、なお、今後、残りのページを順次更新する予定です。

以上

(4) 図書館利用教育文献一覧 (2010 年 6 月～2011 年 1 月発行分)

<<対象誌>>

『医学図書館』『私立大学図書館協会会報』『図書館界』『図書館雑誌』『ほすびたるらいぶらりあん』『みんなの図書館』『薬学図書館』

• この文献一覧の情報は、当委員会委員が現物により収集したものです。内容の誤りや採録されていない文献にお気づきの方は、ぜひご連絡ください。

• 収録対象期間には多少ずれがあります。

• 上記の雑誌以外でも必要に応じて採録しています。

• 一部の文献には解題を付し、担当者の署名を末尾に記しました。

• 書誌事項の先頭に館種を【大学図書館】【公共図書館】等以示し、館種別にリストアップしました。

• ◆は利用教育関連文献、◇は少し広く採録した参考文献です。

【大学図書館】

◆池田有紀；樋口知義；小海理恵「『1 年次教育における情報リテラシー教育』の講習モデルを作成する (2009 年度[私立大学図書館協会]東地区研究部研究分科会報告大会)」『私立大学図書館協会会報』134, 2010.9, p.126-131.

◆市川美智子「パスファインダーを利用した健康医療情報の提供と健康支援」(特集：日本

薬学会第 130 年会薬学図書館協議会企画シンポジウム)『薬学図書館』55(3), 2010.7, p.210-215.

◆菅修一;辰野直子;寺升夕希「事例報告 滋賀医科大学附属図書館における文献検索講習会の拡大について:平成 20 年度と平成 21 年度の取り組み」『医学図書館』57(3), 2010.9, p.294-300.

◆中村雅士「明治大学図書館の学習支援への取り組み」『薬学図書館』55(2), 2010.4, p.135-141.

◆野末俊比古「基調講演 情報リテラシー教育をめぐる新しい課題 (2009 年度[私立大学図書館協会]西地区部会研究会講演, 研究発表記録)」『私立大学図書館協会会報』134, 2010.9, p.138-155.

◆長谷川智史「情報リテラシー教育ツールとしての RefWorks –RefWorks の活用事例から」(プロダクト・レビュー)『薬学図書館』55(3), 2010.7, p.243-246.

◆細矢敬子;古関美津子「図書館員による情報リテラシー教育への参加:[東京慈恵会医科大学]医学科 4 学年への演習を担当して」(特集 第 16 回医学図書館研究会・継続教育コース)『医学図書館』57(2), 2010.6, p.165-170.

◆宮城泰子;作野誠「愛知学院大学歯学・薬学図書館情報センターにおける図書館ガイダンス:本学における入学前 1 年間の図書館利用頻度調査を踏まえて」(特集 第 16 回医学図書館研究会・継続教育コース)『医学図書館』57(2), 2010.6, p.176-180.

◆【図書】和田佳代子「PBL チュートリアル教育における適切な情報収集」日本薬学会編『問題解決型学習ガイドブック;薬学教育に適した PBL チュートリアルの進め方』東京化学同人, 2011.1, p.49-54.

【内容】

医療職に求められる情報リテラシー能力の重要性と情報検索教育の実際, また具体的到達目標について書かれている。生涯学習ができる医療人養成のための自己主導型学習能力の育成を利用者教育の立場から述べている。(W.K.)

【専門図書館】

◆波田野優子「『研修医向けオリエンテーションを支援するテンプレート』を利用して」『ほすびたるらいぶらりあん』35(3), 2010.9, p.147-150.

【内容】

研修医向けの利用案内に, ガイダンス用の PowerPoint を利用したテンプレートの有用性を報告している。(W.K.)

【共通】

◆井上靖代「ほん・本・Book『情報リテラシー教育の実践』[日本図書館協会利用教育委員会編]『みんなの図書館』(405), 2011.1, p.50-52.

◆川場千加「新刊紹介 日本図書館協会利用教育委員会編『情報リテラシー教育の実践－すべての図書館で利用教育を』『図書館界』62(5), 2011.1, p.368.

◆佐藤敬子「図書館員の本棚 情報リテラシー教育の実践－すべての図書館で利用教育を日本図書館協会利用教育委員会編『図書館雑誌』104(9), 2010.9, p.630.

◆野末俊比古「教育講演 情報リテラシー教育における教育学的視点－実践における理論的基盤づくりに向けて」(特集 日本病院ライブラリー協会 2010 年度第1回研修会)『ほすびたるらいぶらりあん』35(3), 2010.9, p.133-138.

【内容】

図書館において、情報リテラシー教育を利用者の目線・立場から見つめ直すことが重要である。その際、教育学的な視点で捉えることが、理論的な基盤を固めることに役立つと述べている。

(W.K.)

(5)編集後記

第78号をお届けします。今号では、来月に京都で開催される第16回図書館利用教育実践セミナーのご案内を掲載しました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(春田)

(6)図書館利用教育委員会委員

(委員長)

野末俊比古 : 青山学院大学教育人間科学部

(委員)

青木玲子 : 和光大学

赤瀬美穂 : 京都産業大学図書館

天野由貴 : 椙山女学園高・中図書館

有吉末充 : 京都学園大学人間文化学部

石川敬史 : 工学院大学総合企画室兼図書館

戸田光昭 : 駿河台大学名誉教授

春田和男 : 東京家政大学人文学部

福田博同 : 跡見学園女子大学文学部

和田佳代子 : 昭和大学歯科医学教育推進室

久保木いづみ : 日本図書館協会事務局

< C U E > 利用教育委員会通信 第78号 (21巻3号) 2011.2.14 発行

・バックナンバー <http://www.jla.or.jp/cue/>

・ 配信登録・変更・解除・お問い合わせ cue@jla.or.jp

※本紙は **Yahoo! Groups** を使って発行していますが、日本図書館協会および当委員会、
ならびに本紙の内容と **Yahoo!** とは関係がありません。
